

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00683

研究課題名（和文）大学入試改革を契機とする新しい高大接続英語教育用eラーニングパッケージの開発研究

研究課題名（英文）A New EFL e-Learning Package Development for a Better Collaboration between High Schools and Universities Taking the Entrance Exam Reform as an Opportunity

研究代表者

岡田 毅（OKADA, Takeshi）

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・特任教授

研究者番号：30185441

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000円

研究成果の概要（和文）： 研究期間初頭の令和元年末までは初期の目標を達成しe-ラーニングシステムの開発研究と実証試験、協力関係諸機関に対する普及と国内外学会・研究会での発表等を行うことができた。しかし、大学入試における英語外部認定試験導入の見送りとCOVID-19の世界的流行のために、システム開発や実践授業への普及、各種のシンポジウムを含む具体的な研究手法の決定的な変更を余儀なくされた。

研究期間後半では開発と検証の終了したe-ラーニングシステム群と英語読解速度測定システムを組み合わせたオンライン実証実験を行い、日本人大学生にとり最適な学習素材の選定と、読解速度と英文内容把握度の相関関係等を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究で開発し提供するものは、中等高等教育がTOEFLテスト素材を基礎とした共通・共用コンテンツを、これまでにない機能を実装したeラーニングシステム上で活用し、同じ方向性を持ったEFL教育を展開する我が国初の機会である。これを成功に導くためのガイドラインの作成・提案と授業実践が本研究の独創性そのものである。研究代表者が長年続けてきたコーパス構築と分析研究の成果に立脚し、EFL学習者のメタ認知負荷を極力抑え、学習のプロセスを客観的に把握するための「学習者によるアノテーション付与を受けたコーパス」としての教材コンテンツがeラーニングシステム上で再帰的に構築され利用されるという独創性がある。

研究成果の概要（英文）： By the end of 2019, we had achieved our initial goals and were able to conduct development research and demonstration tests of the e-learning system, disseminate the system to cooperating schools, and make presentations at domestic and international conferences and research meetings.

However, the postponement of the introduction of an external English language certification test for university entrance examinations and the pandemic of COVID-19 forced a decisive change in our research methods, including system development, dissemination to practical classes, and various symposiums.

In the latter half of the research period, we conducted a new online demonstration experiment combining the e-learning systems, which had been developed and verified, with an English reading speed measurement system and were able to select the most appropriate learning materials for Japanese university students and clarify the correlation between reading speed and correctness of the comprehension.

研究分野：英語教育

キーワード：e-ラーニング 大学入試 高大接続 英語教育 英語学習者コーパス

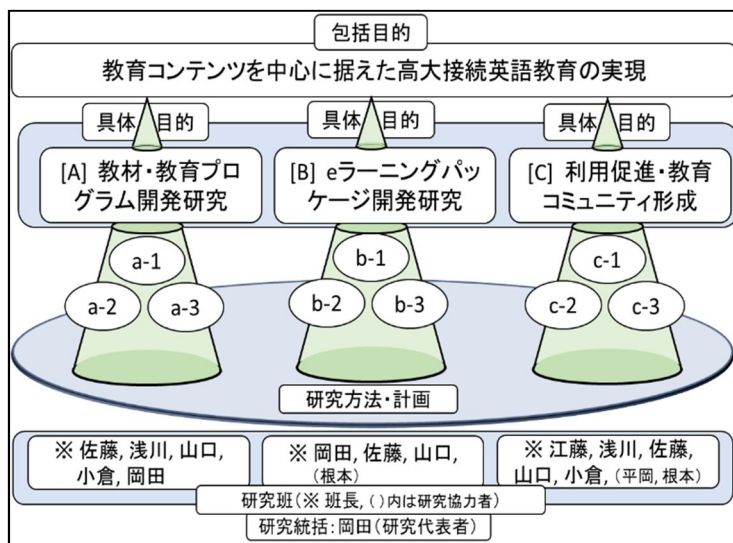
## 1. 研究開始当初の背景

本研究を立案した根本的な背景には「日本の外国語(英語)教育は世界水準から大きく後れをとってしまったのではないか?」という疑問がある。高校から大学への「接続」時に課される大学入試は、受験者の英語能力測定や評価というよりも、専ら入学者選抜の目的に用いられることが多く、評点の閾値を越えることが、高校英語教育の大きな目標の1つとなり続けてきた。高校側には疑義を挟む余地はなく、大学側も学生の英語運用能力の客観的評価と入学後の教育と検証を意識せず、互いが入試制度の根本的欠陥に向き合うことのないまま、高大「不」接続の状態を続けてきたのではないか。その結果としての日本人生徒・学生の英語運用能力の低迷が続いているという大きな問題に対して、平成32年度実施の大学英語入試改革を、世界水準の運用能力測定基準を用いる試験(共通テスト等)の導入、アクティブラーニングに根差した学力を問う試験(個別入試)への改革、によって我が国が求めるグローバル人材の育成を実現するための契機と捉えることによって答えようとしたのが研究開始当初の背景である。

## 2. 研究の目的

日本人高校生・大学生の英語運用能力の低迷の原因追求のみならず、それを打破するための新しい方略を探究し、適切な教授法や学習・教育ツールの開発とその実践による効果検証を実現するために、研究開発の焦点を、外国語としての英語(English as a Foreign Language: 以下EFL)の「教育コンテンツを中心に据えた高大接続英語教育の実現」に当て、研究目的達成のために、具体的な以下の研究目的[A]、[B]、[C]を設定した。

全体構成と研究代表者および研究分担者・協力者の役割分担を下に示す。



### 【具体目的 A】

一般学術目的の英語(English for General Academic Purposes: EGAP)運用能力の標準指標として、世界規模で実施されている TOEFL®テストの信頼性と妥当性の高さに着目し「読む・聞く」から「話す・書く」能力への段階的語彙力増強訓練等に準拠した日本人 EFL 学習者にとって最も合理的な教育プログラムを開発し、協力高校、連携大学の双方にこれを提供して、4技能全般の育成を実現する。これと並行して、EGAP 能力到達を目標とする初中級学習者(中高生)の能力向上のためのアクティブラーニング補助教材として、TOEFL®テストの真正素材を最適化し、それを用いての教授法をデザインする。

### 【具体目的 B】

ICT 時代の教育学習環境の中で、最も効果的な学習を支援するための e ラーニングパッケージを、これまでの研究実績を踏まえ、国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部との連携のもとに開発研究する(研究開始 1 年後の令和元年に米国 ETS の子会社 ETS Japan として再編)。ここには研究代表の研究で培われたコーパス構築と付加情報付与と解析技術に関する知見が最大限に投入される。対面式授業におけるアクティブラーニング等と、クラス外での自律的学習支援とを、学習者間及び教員との連携を保障する e ポートフォリオシステム等の開発により統合する。これにより、クラス内に加えて教室を離れての学習時間の増加が担保され、4技能育成を目指した EFL 教育が高校と大学の間で切れ目なく実践される。

### 【具体目的 C】

開発した教育パッケージを、ETS Japan 及び TOEFL アライアンス等の協力のもとに、入試改

革の前々年度から全国の中・高・大の英語教員を対象とする講習会やシンポジウム等を通じて普及し、広い実践利用を促進しフィードバックを得る。客観的評価指標を反映する教材コンテンツの共有による教育コミュニティの形成を促し、改革直後にも、普及活動及びwebやSNSを介しての情報発信を継続し、「高校でのEFL教育」「(改革される)入試」「大学でのEFL教育」という「入試を中心軸とした双方向」に対して大きな変革の影響を与え続ける。

### 3. 研究の方法

それぞれの具体目的を達成するための方法・計画・内容と、研究行程(研究期間 2年目の末にCOVID-19の世界的拡大が確認されるまで)を以下に示す。

具体目的	方法・計画	内容
[A]	a-1	物理的な学習環境・形式等を問わない包括的なEFL教育学習環境を提供するプログラムの構築と検証、学習者レベルに応じたブレンディッドラーニングプランの策定と評価
	a-2	TOEFL®テストマテリアル利用許諾契約締結を経ての、真正素材を利用した教材及び教育法の開発と実践・評価(本研究グループのみが当該素材の利用許諾をETSより得ている)
	a-3	TOEFL®テスト等の認定試験導入を前提とする大学でのEFL教育プログラムの策定と協力校での授業実践と検証
[B]	b-1	パッケージ中核構成要素としてのeラーニングシステムiBELLES++(Plus)及び協同学習支援用のeポートフォリオシステムの開発・検証、ユーザーズマニュアルの作成・公表
	b-2	ユーザー管理システム及びデータベース構築と運用、学習者個人情報保護等のセキュリティ保証、システム管理者及び授業担当者用チュートリアルビデオ作成・公開
	b-3	学修記録蓄積と分析、ユーザー(教員・学生・TA等)へのアンケート調査結果・フィードバック情報の量的質的解析、クラス内外利用時のシステムパフォーマンス評価と検証
[C]	c-1	客観的共通評価のない「選抜」を中心とした従来の高大「不」接続の実態例の調査、個別入試改革の準備・実施状況調査
	c-2	教育パッケージの紹介・普及を通じた教員コミュニティ形成、出張デモ・公開セミナー・シンポジウム等の開催、専用webページ、SNSからの継続的情報発信
	c-3	開発研究成果発信手法の検証と国内外学会での研究発表と情報交換

	平成30年度(1年目)				平成31年度(2年目)				平成32年度(3年目)				平成33年度(4年目)				総括
	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	
研究総括・各種会議・打合せ	倫理委員会 全体会議	*A,B明会議 全体会議	*B,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,B明会議 全体会議	*A,B明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*A,C明会議 全体会議	*B,C明会議 全体会議	*B,C明会議 全体会議	総括 全体会議
[目的A] 教材・教育プログラム 開発研究班	旧システムデータ解析 旧システムでの授業実践	4技能育成教材開発 旧システム運用停止	スピーキング語彙養成教材開発 クラス外自律EFL学習	インタビュー結果解析 インタビュー	クラス内外学習用教材評価 教育効果測定	入試後追跡調査 調査結果解析											分析と 授業 評価
[目的B] eラーニングパッケージ 開発研究班	iBELLES++ 設計 調整	*力トタイプ完成 調整	新システム試用 調整	マニュアル作製 調整	*iBELLES++ 運用、アンケート調査 調整	*iBELLES++ 運用 調整											システム 総合 評価
[目的C] 利用促進・普及・教育 コミュニティ形成	TOEFLライアンス等 団体加盟 TOEFL 影響者養成講座 等でのアナウンス	専用webページ SNS作成、発信 *FAQ等を通しての普及促進 *公開セミナー	*FAO等を通しての普及促進 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	チュートリアルビデオの作製とweb上からの一般公開 (チュートリアル評価)	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	公開セミナー *SNS発信情報継続更新 TOEFL 影響者講座 等でのアナウンス	分析と 評価
*学会・論文等 での発表・公開	*インフォームドコンセント	発表・論文	*公開シンポジウム 発表・論文	*インフォームドコンセント 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	*公開セミナー 発表・論文	最終成 果報告

研究期間初頭の平成30年4月～令和元年末までは、初期の目標を達成しeラーニングパッケージの中核をなすブレンディッド学習システムiBELLES+(interactive Blended English Language Learning Enhancement system Plus)の設計開発が実現できた。外部委託業者との綿密な打合わせと研究分担者(坂本)自身によるソースコード等の作成により、大幅な経費削減を実現しつつ完成したこの新しいシステムは、前回の科学研究費補助金対象の研究(研究題目「タブレット端末を用いたブレンディッドeラーニングによる外国語教育プログラムの開発」課題番号26284075基盤研究(B)平成26年度～平成28年度)成果のひとつとしてのシステムiBELLESの後継機種である。

このシステムに加えて平成27年度～29年度実施の東北大学高度教養教育開発推進事業費の交付を受けての研究「新しいeラーニングシステムを活用した高年次学部生に対するEGAP(English for General Academic Purposes)教育の展開」の成果のひとつとしての、日本人学習者向け英文難易度測定システムDREC-J(Degree of Reading Ease Calculator for Japanese learners)を効果的に運用することによって、学習者が自らの英語語彙レベルに最適な読解英文パッケージを選択し、クラスでの授業や自律学習の場で当該英文中の特定箇所を客観的に指定し、語彙獲得を推進させつつ読解力そのものの向上を図るというeラーニングパッケージの設計を完了し、実証試験、および協力関係諸機関に対する普及と国内外学会・研究会での発表等を行うことができた。

しかし、文部科学書による平成 32 年度大学入試における例えば TOEFL iBT®テスト等の英語外部認定試験導入の見送りによって、本研究の当初計画が大きく影響を受けることになった。この見送りに伴い、各大学が実施する個別入試における英語学力試験に対して、文科省は英語 4 技能のうち特に speaking と writing 能力測定を心がけるよう一定の要望を示したが、これは外部認定試験の導入が実現した場合とは大きく性格を異にするもので、その具体的な影響が個別学力試験に確実に反映されたとは言い難い。そして、この傾向は残念ながら、本成果報告書作成の令和 5 年 6 月時点においても依然として解消されていない。

この国内教育行政の方針転換に加えて、本研究の推進にきわめて大きな影響を及ぼしたのが、COVID-19 の世界的流行であった。このために、開発した e ラーニングパッケージの対面式授業における実証実験が完全に不可能となり、検証に基づくシステム改良が阻害されることになった。また、令和元年度までは支障なく推進されていた新しいシステムやパッケージのデモンストレーションを介しての実践授業への普及、および各種のシンポジウムを含む具体的なフィードバックの収集といった研究計画の決定的な変更を余儀なくされた。

研究年度 3 年目から 4 年目へ、4 年目から 5 年目(令和 4 年度)へと 2 度にわたる研究経費の繰り越しが発生したのは、主に国内外での対面式学会発表やハンズオン形式のセミナー等が実施できず、予定されていた旅費等の経費に大きな繰り越しの必要が生じたためである。

#### 4. 研究成果

研究期間前半の約 1.5 年間は当初計画に沿った研究が推進され、その成果として平成 30 年度から令和元年度の期間には、新たに開発した e-ラーニングシステム iBELLEs+を活用した授業実践に基づいて「5. 主な発表論文等」に記載したように各種の国内外ジャーナルに研究論文を掲載し学会・研究会での発表を行った。

特に対面式の英語授業における双方向性を伴った実践における iBELLEs+の活用方法に関しては協力関係にある高等学校の英語教員からも強い関心が寄せられ、研究会でのデモンストレーションやチュートリアルビデオの公開を含めた普及の促進をはかることができた。

Writing や Speaking のように学習者の産出物が直接観察・評価の対象となるスキルとは異なり、Reading という脳内プロセスを可能な限りリアルタイム性をもって観察しようというのが iBELLEs+開発の基本的な狙いである。そのために、特に個々の学習者にとって「全く未知だった」語彙や表現と「ある程度知っている(ウロ覚え)」で未定着の語彙や表現を画面上の色分けハイライト機能によって、読解過程の最中に記録し、それをクラス単位、習熟度単位、個人単位で教員が観察する際に、詳細な数値データよりもむしろ直観に訴える視認性の高いインターフェースを実装した iBELLEs+の活用によって、英語教員はクラス全体や学習者個々にとって最適な指導方法や学習素材を選択することができるようになるという結果がアンケート調査等を通して明らかにされた。

また、5. 中の「雑誌論文」と「学会発表」で示されるように、「英語読解プロセスの動的な解明」を主なターゲットとして開発研究を進めてきた iBELLEs+のような e-ラーニングシステムと研究分担者佐藤が開発する英語 writing 支援・評価システムによる表出発信能力の育成と、研究分担者(山口)の領域である e-ポートフォリオによる学習者自身の内省と学習者間の協働学習による学習内容把持との連携を探り、各種の論文発表と共に多くの大学教員が集まるオープンな形式の発表会等でその可能性を提示した。同じように、高等学校英語教員も含めた TOEFL®指導者養成用の講座(研究協力者・根本所属の ETS Japan 主催)では岡田と佐藤が iBELLEs+を中心に据えた多角的な英語力指導の在り方について講演した。研究分担者(浅川)が所属する名古屋外国語大学の公開シンポジウムには、本研究チームが招聘され iBELLEs+に搭載し提供される真正の TOEFL ITP®マテリアルの活用方法についてジョイント講演を行った。宮城県・大阪府・東京都等の協力関係にある高校で、高校生の学力水準に応じた読解学習教材の自律的選択の可能性が iBELLEs+パッケージにより担保されるという趣旨の説明会等を実施し、事後のアンケート調査等を介して多様な意見の収集が行えた。

2020 年当初からの COVID-19 感染症の世界的拡大に伴い、対面式授業での実践的な検証と、国内外での活発な研究発表とが大きな障害を被った。これにより、高等学校での実証実験が事実上不可能となった。この研究期間後半では、多くの活動をオンライン環境に移植し、学会での研究発表等も全てオンラインで行った。最大の困難点は、高校・大学を問わず、対面式授業の大幅な制限によって、実践的な英語授業での実証実験協力が得られなくなったことであり、この点は高大接続を重視する本研究の性格にとって大きな痛手となったことは否定できない。オンラインアンケート調査やオンラインインタビュー等も実施したが、大学受験を控えた高校生の英語学習活動を、ブレンディッドシステムを介して実際に観察する機会が失われたことも事実である。したがって、研究期間前半で一応の開発と検証の終了した e-ラーニングシステム iBELLEs+と DREC-J に加えて、研究分担者(坂本・山口)が開発した英語読解速度測定システムである ERAMS(English Reading Accuracy Measurement System)を組み合わせて活用し、新たなオンライン実証実験を行った。この実験を通して、幅広い習熟度に分布する日本人大学生の英文読解訓練にとって最適なレベルの学習素材の選定と、読解速度と英文内容把握度の相関関係等を明らかにすることができ、研究結果は雑誌論文として公表し、国内外の学会等で発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 28件／うち国際共著 6件／うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 Takehiro Hashimoto, Takeshi Sato	4. 巻 1
2. 論文標題 Online collaborative writing: learners' perceptions and their changes using data visualization tools and interviews	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Short papers from EUROCALL 2022	6. 最初と最後の頁 147-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Takeshi Sato, Yuda Lai, Tyler Burden	4. 巻 9
2. 論文標題 L2 vocabulary learning with animated aids -Do learner factors affect L2 production with figurative expressions?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ampersand	6. 最初と最後の頁 100100-100101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.amper.2022.100100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Takeshi Sato, Yuda Lai, Tyler Burden	4. 巻 34
2. 論文標題 The role of individual factors in L2 vocabulary learning with cognitive-linguistics-based static and dynamic visual aids	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ReCALL	6. 最初と最後の頁 201-217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/s0958344021000288	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 江藤裕之	4. 巻 55
2. 論文標題 インターネットと英語ライティングマニュアルを活用した英語アカデミックライティングのスキルアップ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 634-639
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Thiri Soe, Eto Hiroyuki	4. 巻 9
2. 論文標題 Aspects in the development of critical thinking in Asian EFL higher education: A critical review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Linguistics, Literature and Culture	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19044/llc.v9no4a1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takeshi Okada, Yasunobu Sakamoto	4. 巻 21
2. 論文標題 In Search for the Optimal Matching of the EFL Learners and their Reading Materials	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Abstracts and Conference Materials for the 21st European Conference on e-Learning: Brighton	6. 最初と最後の頁 122-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeshi Okada, Yasunobu Sakamoto, Takane Yamaguchi	4. 巻 20
2. 論文標題 EFL Reading Speed and Comprehension: Combining Three e-learning Systems	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Abstracts and Conference Materials for the 20th European Conference on e-Learning: Berlin	6. 最初と最後の頁 101-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okada Takeshi, Sakaba Hiroko	4. 巻 10
2. 論文標題 Usage Patterns and Meanings of High-Frequency English Verbs: A Multi-Word Expression Approach to Japanese High School EFL Textbook Analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Applied Linguistics and English Literature	6. 最初と最後の頁 116-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7575/aiac.ijalel.v.10n.4p.116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Takeshi, Lai Yuda, Burden Tyler	4. 巻 34
2. 論文標題 The role of individual factors in L2 vocabulary learning with cognitive-linguistics-based static and dynamic visual aids	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ReCALL	6. 最初と最後の頁 201-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0958344021000288	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 江藤裕之	4. 巻 29
2. 論文標題 英語論文作成マニュアル最新版の特徴とアカデミックライティングの授業への応用 Turabian, MLA, APA の比較から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学国際文化研究科論集	6. 最初と最後の頁 77-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤裕之	4. 巻 8
2. 論文標題 翻訳ソフトによる逆翻訳を用いた英語ライティング指導の可能性 英語の自学自習支援の一手段として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	6. 最初と最後の頁 235-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤裕之、阿重田樹海	4. 巻 55
2. 論文標題 ここが変わった！ 先出し『APA論文作成マニュアル』原書第7版改訂のポイント. 第1回 全体の構成とレイアウトの変化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 96-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤裕之	4. 巻 16
2. 論文標題 「学ぶ」と「教える」 語源から見たその本質について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ヨーロッパ研究 (European Studies)	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口高領	4. 巻 -
2. 論文標題 大学英語教育におけるWriting指導と評価 ツールの利活用, 他技能の組み入れ, 学習履歴作成, 自己評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学習情報研究2022年1月号	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口高領	4. 巻 9
2. 論文標題 小学校での外国語指導者を養成するための教職課程における自己評価記述文への自己評価の変化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語教師教育	6. 最初と最後の頁 20-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口高領・飯田敦史・多田豪・青田庄真・新井巧磨・鈴木健太郎・木村松雄	4. 巻 1
2. 論文標題 JACET関東支部特別研究プロジェクト 大学における英語教員養成コアカリキュラムの実態調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 飯田敦史・山口高領・奥切恵・青田庄真・新井巧磨・鈴木健太郎・多田豪・辻りこ・中竹真依子・濱田彰・藤尾美佐・米山明日香・木村松雄	4. 巻 6
2. 論文標題 教員養成課程コアカリキュラムの実態調査 大学教職担当者の見解から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JACET-KANTO Journal,	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口高領・米田佐紀子・中山夏恵・藤井佐代子	4. 巻 6
2. 論文標題 小学校英語指導者のポートフォリオの開発：教職課程試用版の自己評価記述文の選定と今後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teacher Education	6. 最初と最後の頁 74-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口高領・米田佐紀子・中山夏恵・藤井佐代子	4. 巻 5
2. 論文標題 小学校現職教員対象「J-POSTL エレメンタリー」 全国調査結果の概要と今後の課題 ,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語教育エキスポ2019予稿集	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takane Yamaguchi, Eri Osada, Ken Hisamura, Gaby Benthien	4. 巻 6
2. 論文標題 Japanese Portfolio for Elementary English Educators: Specifying Self-assessment Descriptors for Student Teachers	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teacher Education	6. 最初と最後の頁 37-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口高領・米田佐紀子・中山夏恵・藤井佐代子	4. 巻 6
2. 論文標題 これからの小学校英語指導者に必要な資質・能力の特定 小学校教職課程履修生と小学校教員から得られた調査結果を基に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語教育エキスポ2020予稿集	6. 最初と最後の頁 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山夏恵・山口高領・久村研	4. 巻 7
2. 論文標題 英語指導者の資質・能力に対する小学校現職教員の意識：小学校現職教員対象「J-POSTLエレメンタリー」全国調査の結果から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Language Teacher Education	6. 最初と最後の頁 13-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤尾美佐・山口高領・青田庄真・新井巧磨・飯田敦史・奥切恵・金子淳・鈴木健太郎・多田豪・辻りこ・中竹真依子・濱田彰・横川博一・木村松雄	4. 巻 1
2. 論文標題 全国都道府県における英語教育研究の実態調査 全国市レベルの取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JAAL in JACET Proceedings, 2, JACET	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, T., Ogura, M., Aota, S., & Burden, T.	4. 巻 1
2. 論文標題 Does an automated translation bot support or hinder L2 collaborative interaction? : In terms of L2 production and motivation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the International CALL Research Conference 2019	6. 最初と最後の頁 235-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 江藤裕之	4. 巻 17
2. 論文標題 シンガポール、マレーシア、香港における英語環境と英語教育支援 日本人の英語を考えるヒントとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 21世紀アジア学研究	6. 最初と最後の頁 66-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤裕之	4. 巻 28
2. 論文標題 英語の授業に必要な英語史の基礎知識 教員免許状更新講習の実践報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 An Annual Journal of Historical English Studies	6. 最初と最後の頁 66-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, T. and Burden, T.	4. 巻 17
2. 論文標題 The Impact of Information Processing Styles in Mobile-Assisted Language Learning: Are Multimedia Materials Effective for Every Learner?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Electronic Journal of Foreign Language Teaching	6. 最初と最後の頁 154-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada, T. and Fathali, S.	4. 巻 18
2. 論文標題 A blended EFL reading course based on the idea of the learner-annotated corpus	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本e-Learning学会誌	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32144/jela.18.0_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fathali, S. and Okada, T.	4. 巻 34
2. 論文標題 Technology acceptance model in technology-enhanced OCLL contexts: A self-determination theory approach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Australasian Journal of Educational Technology	6. 最初と最後の頁 138-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14742/ajet.3629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada, T. and Sakamoto, Y.	4. 巻 1
2. 論文標題 A New e-Learning System for EFL Teacher Collaboration	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Abstracts and Conference Materials for the 18th European Conference on e-Learning	6. 最初と最後の頁 100-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, T., Ogura M., Aota, S., & Burden, T.	4. 巻 1
2. 論文標題 Examining the impact of an automated translation chatbot on online collaborative dialog for incidental L2 learning	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Short papers from EUROCALL 2018	6. 最初と最後の頁 284-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Eto	4. 巻 1
2. 論文標題 Difficulty in the Translation of Nuance: Focusing on 'Synonyms at Three Levels' in English and Japanese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Technology and Media in Translation and Interpreting: Current Trends, Issues and Challenges. Proceedings of the International Seminar on Translation and Interpreting	6. 最初と最後の頁 297-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤裕之、北原良夫、長野明子	4. 巻 4
2. 論文標題 東アジアの準英語圏・非英語圏における英語学習サポートシステムの実態調査 その経過と香港地域の大学の調査結果報告を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	6. 最初と最後の頁 415-426
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤裕之	4. 巻 67
2. 論文標題 東アジアの大学における特色ある英語教育サポートシステム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okada, T. and S. Fathali.	4. 巻 18
2. 論文標題 A Blended EFL Reading Course Based on the Idea of the Learner-Annotated Corpus	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本e-Learning学会論文誌	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32144/jela.18.0_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fathali, S. and T. Okada.	4. 巻 34
2. 論文標題 Technology Acceptance Model in Technology-Enhanced OCLL Contexts: A Self-Determination Theory Approach	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Australasian Journal of Educational Technology	6. 最初と最後の頁 138-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14742/ajet.3629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口高領・飯田敦史・多田豪・青田庄真・新井巧磨・鈴木健太郎・木村松雄	4. 巻 1
2. 論文標題 JACET関東支部特別研究プロジェクト 大学における英語教員養成コアカリキュラムの実態調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口高領・米田佐紀子・中山夏恵・藤井佐代子	4. 巻 1
2. 論文標題 小学校現職教員対象「J-POSTL エレメンタリー」 全国調査結果の概要と今後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語教育エキスポ2019予稿集	6. 最初と最後の頁 407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Kotaro Hayashi, Takeshi Sato
2. 発表標題 The effectiveness of the learning software for EFL chunk reading using eye-tracking data
3. 学会等名 CamTESOL 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takehiro Hashimoto, Takeshi Sato
2. 発表標題 Online collaborative writing in the EFL environment: Learner's perception and its change using data visualization tools and interviews as mixed methods research
3. 学会等名 EUROCALL 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamaguchi Takane; Jimbo Hisatake; Hisamura Ken
2. 発表標題 Challenges and Prospects of Pre-service Teacher Education Using Portfolios as a Reflection Tool
3. 学会等名 The 57th RELC International Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takeshi Okada
2. 発表標題 The Need to Create a Competency Framework for Teachers of EAP for Japanese Universities
3. 学会等名 BALEAP (British Association of Lecturers of English for Academic Purposes) PIM: From EAP Teacher to EAP Educator (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田毅
2. 発表標題 一貫性あるカリキュラム策定と授業提供～東北大学モデル～
3. 学会等名 アルクエデュケーションセミナー (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeshi Okada, Yasunobu Sakamoto, Takane Yamaguchi
2. 発表標題 EFL Reading Speed and Comprehension: Combining Three e-learning Systems
3. 学会等名 The 20th European Conference on e-Learning (Berlin) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江藤裕之
2. 発表標題 コロナ禍で留学生が直面する問題と支援
3. 学会等名 NIDA・東北大学・タマサート大学 国際合同シンポジウム 2021: Harmonization of cultural studies and language studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗原文子、長田恵理、山口高領、米田佐紀子、安達理恵
2. 発表標題 Ensuring pedagogical consistency between primary- and secondary-level foreign language education through portfolios in Japan
3. 学会等名 AILA World Congress 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口高領、米田佐紀子
2. 発表標題 J-POSTL エレメンタリーの開発 小学校教職課程履修学生のためのCan-do記述文
3. 学会等名 JACET 60th Commemorative International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口高領
2. 発表標題 『J-POSTL エレメンタリー』の開発の理念とその主な使用方法
3. 学会等名 2021年度JACET中国・四国支部秋季研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 山口高領
2. 発表標題 ピアレビューによる英語口頭発表原稿作成活動 iBELLEsをライティングのピアレビューに効果的に使用する可能性を探る
3. 学会等名 シンポジウム「これからの英語教育」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口高領・田淵龍二
2. 発表標題 リーダビリティ、語彙レベル、発話速度を手がかりとして
3. 学会等名 外国語教育メディア学会(LET)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山夏恵・山口高領・久村研
2. 発表標題 英語指導者の資質・能力に対する小学校現職教員の意識と小・中・高の連携の課題 小学校現職教員対象「J-POSTLエレメンタリー」全国調査の結果から
3. 学会等名 大学英語教育学会(JACET)第12回関東支部大会,
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口高領
2. 発表標題 大学での語学や教員養成科目で用いたClassroomの実践報告
3. 学会等名 Google for Educationワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口高領・米田佐紀子
2. 発表標題 小学校教職課程履修生に求められる資質・能力 第1回学生調査に基づいて
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会(KATE)第43回神奈川研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤尾美佐・山口高領・青田庄真・新井巧磨・飯田敦史・奥切恵・金子淳・鈴木健太郎・多田豪・辻りこ・中竹真依子・濱田彰・横川博一・木村松雄
2. 発表標題 全国都道府県英語教育研究テーマの調査研究 全国市レベルの取り組み
3. 学会等名 第2回JAAL in JACET学术交流集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口高領
2. 発表標題 統計の基礎の基礎 データの読み方
3. 学会等名 JACET関東支部・東洋大学共催企画(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sato, T., Ogura, M., Aota, S., & Burden, T.
2. 発表標題 Does an automated translation bot support hinder L2 collaborative interaction? : In terms of L2 production and motivation
3. 学会等名 The CALL 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayashi, K., Sakamoto, Y., Sakata, N., & Sato, T.
2. 発表標題 Can a simple human-like robot improve oral education for students with Social Anxiety?
3. 学会等名 The 2019 Conference of Foreign Language Education and Technology (FLEAT) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本 健広・岡田 毅・松尾 英俊・佐藤 健
2. 発表標題 ICTを用いた外国語教育実践: 音読・リーディング・ライティング
3. 学会等名 言語教育エキスポ2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田毅
2. 発表標題 英語教育におけるe-learningと対面式授業の接点
3. 学会等名 宮城県私立中学校・高等学校英語研究会総会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江藤裕之
2. 発表標題 日本語と英語の翻訳
3. 学会等名 マラヤ大学外国語及び言語学部(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Okada and Yasunobu Sakamoto
2. 発表標題 A New e-Learning System for EFL Teacher Collaboration
3. 学会等名 The 18th European Conference on e-Learning (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田毅
2. 発表標題 EFLコンテンツ中心の高大接続のためのeラーニングシステムiBELLEs+
3. 学会等名 シンポジウム「これからの英語教育」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田毅
2. 発表標題 新しいeラーニングシステムiBELLEsを介した即時インタラクションと英語リーディング指導の展開
3. 学会等名 言語教育エキスポ 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田毅
2. 発表標題 教材コンテンツと指導法の共有による高大英語教育接続: eラーニングシステム iBELLEs+ を介して
3. 学会等名 第18回 英語教師学びの会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, T., Ogura, M., Aota, S., & Burden, T.
2. 発表標題 Examining the impact of an automated translation chatbot on online collaborative dialogue for incidental L2 learning
3. 学会等名 EUROCALL 2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本健広、佐藤健
2. 発表標題 EFL環境におけるオンライン協働ライティング：データ可視化ツールとインタビューの混合法からみる学習者の協働ライティングに対する受容の変化
3. 学会等名 第58回LET全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋由紀子、片桐徳昭、関谷弘毅、佐藤健
2. 発表標題 ESPコーパス構築からのデジタル教材作成とその効果
3. 学会等名 JACET 2018 Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本健広、岡田毅、松尾英俊、佐藤健
2. 発表標題 ICTを用いた外国語教育実践：音読・リーディング・ライティング
3. 学会等名 言語教育エキスポ2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江藤裕之
2. 発表標題 『正しい』英語とは? 「教室」で教える英語
3. 学会等名 仙台私英研総会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江藤裕之
2. 発表標題 論文作成と研究法の基礎知識
3. 学会等名 タイ国立開発行政研究院(NIDA)(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岡田毅	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 英語コーパス研究シリーズ 第1巻: コーパスと英語研究(執筆担当)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

iBELLEs+教員用ログインページ <a href="https://ibelles.jp/iBELLEsPlus_eng/MasterLogin">https://ibelles.jp/iBELLEsPlus_eng/MasterLogin</a> iBELLEs+学生用ログインページ <a href="https://ibelles.jp/iBELLEsPlus_eng/Login">https://ibelles.jp/iBELLEsPlus_eng/Login</a> DREC-Jポータルサイト <a href="https://sites.google.com/site/drecjpotarusaito/">https://sites.google.com/site/drecjpotarusaito/</a> DREC-Jログインページ <a href="http://drec-j.jp/">http://drec-j.jp/</a> ERAMSログインページ <a href="https://atarime.cs.tohoku-gakuin.ac.jp/tools/public/erams/#/">https://atarime.cs.tohoku-gakuin.ac.jp/tools/public/erams/#/</a> IPCCAログインページ <a href="https://atarime.cs.tohoku-gakuin.ac.jp/tools/public/ipcca/#/">https://atarime.cs.tohoku-gakuin.ac.jp/tools/public/ipcca/#/</a>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 健  (Sato Takeshi)  (40402242)	東京農工大学・工学(系)研究科(研究院)・教授    (12605)	
研究分担者	坂本 泰伸  (Sakamoto Yasunobu)  (60350328)	東北学院大学・情報学部・教授    (31302)	
研究分担者	山口 高領  (Yamaguchi Takane)  (60386555)	秀明大学・学校教師学部・専任講師    (32513)	
研究分担者	江藤 裕之  (Eto Hiroyuki)  (70420700)	東北大学・国際文化研究科・教授    (11301)	
研究分担者	浅川 照夫  (Asakawa Teruo)  (50101522)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授    (33925)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関